

保育界

2015
2



発行 日本保育協会

“自然のもの”と“自然ではないもの”

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

自然との触れ合いは、思いやる心、命やものを大切にする心を育みます。こうした“自然の保育力”を活かすためには、園児が普段生活する範囲内に自然と触れ合う空間を設ける必要があります。ここでは園庭ビオトープの施工や管理活用のノウハウをご紹介します。



「自然のもの」の例

シジュウカラ、ツバメ、
アマガエル、ニホントカゲ、
アゲハチョウ、ヤマトシジミ、
カブトムシ、ナナホシテントウ、
アブラゼミ、エンマコオロギ、
オオカマキリ、オンブバッタ、
シオカラトンボ、ドジョウ、メダカ、
ホトケノザ、スギナ(つくし)、
スミレ、カタバミ、ガマズミ、
エノコログサ、ススキ、ヤマハギ、
フジバカマ、アケビ、カラスウリ、
ヤマザクラ、コナラ、エゴノキ
…など、
もともと地域に生息している
さまざまな野生の生きもの

「自然ではないもの」の例

飼育・愛玩動物

にわとり、チャボ、
あひる、あいごも、
ハムスター、
モルモット、
フェレット、
いえずさぎ、
犬、猫、
馬、牛、ひつじ、やぎ、
金魚、錦鯉、
ヒメダカ

…など

園芸種、農作物

コスモス、ひまわり、
チューリップ、パンジー、
あさがお、おしろいばな、
稲(米)、大根、人参、
ねぎ、ゴーヤ、ピーマン、
トマト、ミニトマト、
キャベツ、とうもろこし、
さつまいも、いちご、
さくらんぼ、みかん、
ブルーベリー、
桜(ソメイヨシノ)、
芝生

…など

外来種

アメリカザリガニ
ウシガエル
外国産のクワガタムシ
アライグマ
ブラックバス
ブルーギル
ゲンゲ(レンガ)
シロツメクサ
セイタカアワダチソウ
オオキンケイギク
キショウブ
クレソン
ホテイアオイ
シダレヤナギ

…など

※「自然のもの」の例は、主に関東の平野部を基準としたものです。日本の自然はじつに多彩で、地域によっては「自然ではないもの」になってしまうことがあります。

『健全な自然観を育む』



最近の子どもが描く自然の絵に、金魚、チューリップやヒマワリなど日本の自然には本来いない動植物が目立ちます。また、「自然はきたない」「虫がこわい」と思う子どもも見られるようになりました。普段生活する範囲から地域本来の自然が消えつつある中で、子どもたちは地域の自然の本当の姿、素晴らしさが分からなくなっています。

自然には地域特性があります。気候風土に応じて、地域ごとに異なる自然ができあがっています。園児に自然の大切さを伝えていくためには、まず地域本来の自然の姿を見せる必要があります。そして、その自然の楽しさ、美しさ、不思議さに気付き感動する気持ちを、体験を通じて抱かせていくことが求められます。

園庭にビオトープをつくるときには、園児の健全な自然観や自然への愛着を育むために、地域の“自然のもの”を植えたり、生やしたりすることが基本となります。

■日本生態系協会 企画『ドイツ・自然とのふれあいを大切にする園づくりツアー2015』

本ツアー(14回目)では、自然を活かした保育環境づくりを積極的にすすめるドイツの保育所・幼稚園、そうした取組を支援する行政機関などを訪問します。

期間は8月17日(月)～23日(日)の7日間を予定。募集人員は20名程度。

詳しくは、日本生態系協会(TEL 03-5951-0244)までお問い合わせください。